令和8年10月11日(日)
大崎タイムス掲載

先輩の支援で現場実習

古川工業高建築科2年生 マナーや職業観育む

古川工業高建築科2年生の産業現場実習（インターンシップ）が6日から4日間、大崎地方の15事業所で行われた。生徒39人は社会人として必要なマナーや建築知識などを実際の現場で学び、職業観を育んだ。

現場実習は、将来の進路選択に役立てもらおうと、同科卒業生でつくる「古工建友会」（早坂竜太会長）が生徒を受け入れている。22回目となることしは大崎市役所や大崎地方の建築事務所、不動産業で行い、先輩の社会人が後輩たちを指導した。

このうち、早坂会長が社長を務める古川土地の実習には、川村愛深さん(16)、佐々木さくらさん(17)、中鉢萌愛さん(16)が参加。あいさつや電話対応などの接客マナーを教わったり、地盤調査や住宅の基礎工事、仕上げ工事の現場を見学したりした。

最終日は、住宅地にあるモデルルームで模擬接客に挑戦。途中で言葉に詰まったり、来場者役の同級生から助け舟を出されたりしながら、広いリビングや暖房のある浴室、制震構造といった家のセールスポイントを売り込んだ。

川村さんは「優しく丁寧に教えてもらい、社会に出る体験ができた。インターンシップでの学びを、これからの勉強や進路に生かしたい」と話していた。

3人を指導した同社の平吹淳売買営業課長は「(生徒たちは)一度教えたことをすんなりと吸収してくれた。今後も自分の良いところを伸ばして、素晴らしい社会人になってほしい」とエールを送っていた。

モデルルームで模擬接客する生徒たち